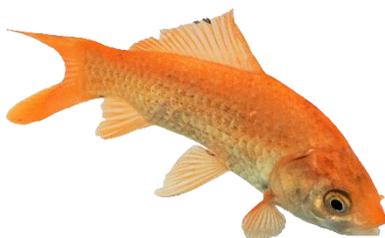


## 秋の特別展「1502 日本が色づいた!」展示生体について

- ヒブナ



漢字で書くと緋鮒。通常は持っている黒い色素が突然変異により欠乏し赤変したフナ。

1502年に渡来し、日本の観賞魚文化の始まりとなった魚でもある。底生生物や藻類などを食べる雑食性。

- デメキン



琉金の突然変異によって目玉が飛び出した品種。赤、キャリコ、更紗など様々な品種がある。頭と尾を振り全身を使うように泳ぐ姿は非常に愛嬌があり、本品種の特徴でもある。

- グッピー



南アメリカ原産で卵ではなく直接子ども産んで繁殖する卵胎生の魚。観賞用として人気があり、世界中で品種改良がおこなわれている。オスはメスと比べて体が小さく、鮮やかな体色をしており、尻ビレの一部が伸長し交接器になる。